

らの取り組みが始まったことは注目すべき事態であり、これからもその動向に注目していく必要があると感じた。

屋内型ウォーターパークという空間：
その形成と機能変遷

白池 円

コミュニティ FM が作るコミュニティ：
FM 西東京とむさしの FM を事例に

谷口 瑠里子

コミュニティ FM は、市区町村単位で放送をするローカルラジオである。市民参加型メディアとして街づくりの面から、また、近年の防災意識の高まりと共に注目され、その開局数は全国で 200 局を超える。

旧郵政省による当初の制度化の目的の 1 つは、地域社会再生の役割を担うことであった。地域情報発信のツールとしてだけでなく、地域コミュニティの形成・強化が期待されているのである。東京の住宅地で、近所付き合いを知らずに育った筆者にとって、地域をキーワードに人をつなぐ可能性の模索は非常に興味深い。普段からラジオのヘビーリスナーであることもあり、コミュニティ FM をテーマに選んだ。

本稿では、コミュニティ FM が作り出すコミュニティがどのようなものなのかという問題意識のもと、都市におけるコミュニティの姿を考察し、現状でコミュニティ FM が、都市社会の構成メンバーとどのような関係を築いているかを明らかにした。「地域」をキーワードに人がつながることが珍しくなった都市社会において、コミュニティ FM は、地域コミュニティを作り、強化していることがわかった。

コミュニティ形成における課題としては、コミュニティが限定的であることがあげられ

る。現状では、コミュニティ FM とつながりを持っているのは地域の諸団体であり、リスナーや過去の出演者とのつながりは作れていない。

今後、コミュニティ FM は、経営安定の工夫をしながら、より充実した放送を目指し、地域の人々とコミュニケーションを取ること、個人の中に「地域を知る→興味を持つ→コミュニティ FM に参加する」という循環を作る努力が望まれる。地域コミュニティ再生の旗手として、大いに期待したい。

過疎山村における集落機能の「限界化」による住民生活への影響に関する考察：
東京都檜原村中組地区を事例として

新沼 星織

近年、都市部においても高齢化による問題が深刻化している。しかしそれらは高度経済成長期以降継続して人口減少が見られた山間地域においては、先行現象として常態化している問題であり、既に自然減による集落消滅、地域衰退を経験している。過疎化プロセスや集落消滅メカニズムを考察した研究からは、人口の小規模性により消滅が危惧される「限界集落」が定義された。その後、大規模センサスの分析からそれに当たる集落の割り出しに力が注がれ、特に自然資源管理機能が衰退することを危惧して集落消滅の問題が議論された。農林業関係者に主導されたこれらの議論には、当集落に住む住民の生活に対する視点が希薄であり、常に生活続行に否定的な議論に収斂する点が問題である。本稿は第一に、限界集落住民の生活実態を把握すること、第二に集落機能と住民生活の相互関係を明らかにすること、第三に対限界集落の具体策を検討することを目的とし、東京都下の過疎山村、檜原村の中組地区を対象に、生活行動調査を行った。そして明らかになったのは、道役や祭事などの集落機能は地区内在住者のみでの